

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月18日実施)	総合評価（3月19日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校の教育課程全体で問題解決能力を育み、持続可能な社会の担い手を育成する。 ②「総合的な探究の時間」の研究開発等をととして、次代に求められる資質・能力・態度を育成する。	①生徒に身に付けさせたい「学力」や「問題解決能力」の育成に向けて、各教科における探究的な学びの実践、その適正な評価の研究を進める。 ②教科内での議論の深化と、教科横断的な「学び」の研究を進める。	①・本校生徒に必要な学習内容を精選し、生徒に身に付けさせたい学力を意識した教科指導を展開する。 ・ICT端末を使用した授業の展開や探究的な学びの実践において、適切な評価の在り方を研究し、共有する。 ②「総合的な探究の時間」を中心に、各教科において課題解決能力を育成する。	①・指導と評価の計画に基づき適切に実践することができたか。 ・ICT端末を用いた授業の在り方と、適切な評価を研究することができたか。 ②・目標に沿った適切な課題設定と探究活動を行うことができたか。 ・「情報収集・分析・考察」を通して、生徒間による相互評価の力を育成できたか。	①・指導と評価の計画に基づき、生徒に身に付けさせたい学力を意識した学習内容の充実を図った。 ・ICT端末を活用し、探究的な学びの実践を意識し多くの教科で公開研究授業を実施した。 ②・「総合的な探究の時間」を中心に、教科横断的な探究活動をととして課題発見、プレゼンテーション力の育成に取り組んだ。	①・生徒に身に付けさせたい学力を意識し、探究的な学びを取り入れた研究を今後も行い、より充実した教科指導を実践する。 ・ICTスキルは生徒、教員ともに向上しており、今後も活用の普及の拡大、実践例の蓄積を行い、改善に向け研究を行う。 ②・適切な課題設定の評価方法や「情報収集・分析・考察」の向上に向けた教員間の指導など情報共有やさらなる協議が必要である。	(校内評価アンケート) ① 4段階3以上：生徒97%、保護者94%、2以下：生徒2%、保護者5% ② 4段階3以上：生徒97%、保護者95%、2以下：生徒3%、保護者5%	①・生徒に身に付けさせたい「学力」や「問題解決能力」の向上のため、グループワーク・ICTを活用した学習活動を授業に取り入れることができた。 ②・「総合的な探究の時間」を通して身についた探究的活動を他教科・科目等に展開していくことができた。 ・探究的な活動をどう活用し、理解を深められるかを今後も引き続き整理・分析していく必要がある。	①・ICT利用により、自宅での学習は動画やプリント等により可能になっている。 ②「総合的な探究の時間」はキャリア支援グループが主体となって進めているが、グループ、学年および教科横断的に進めていく必要がある。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①学習活動、学校行事、部活動等の活動を通して、自己肯定感と行動力の高い、自主自立した人材を育成する。 ②一人ひとりが豊かな人生を切り拓くために、それぞれの生き方や人としての在り方を学ぶ教育活動を推進する。	①コロナ以前の活気に満ち溢れた学校行事を取り戻すとともに、より良い行事をつくるための方法を検討し、生徒の充実した学習機会を提供する。 ②・人としての「在り方」「生き方」を考えさせる指導を通して、自他を尊重し、人として備えるべき資質を身に付けさせる。 ・教育相談体制の充実を図り、実践を重ねる。	①生徒会本部や委員会等の生徒が中心となり、生徒一人ひとりが輝ける行事の在り方を検討し、協力して実行できる学びの機会とする。 ②・遅刻指導等の日常的な指導を徹底し、道徳観や規範意識を高める。 ・人権研修等を通じ、自尊感情を育み、また多様性を認める意識を醸成する。 ・面談、かながわ子どもサポートドックを通して、多様化する生徒の困り感に組織的に対応する。	①生徒主体の生徒会行事を企画・運営することができたか。（アンケート） ②・遅刻指導対象者を減らすことができたか。 ・道徳観や規範意識を高めることができたか。（人権講話後アンケート） ・面談、かながわ子どもサポートドックを適切に実施し、組織的に対応できたか。	①より多くの生徒が楽しめるよう検討し充実した行事を行うことができた。文化祭においては、新たに野外ステージを設置し、中学生や地域の方々により楽しんでもらえるよう工夫した。また、オンライン決済を導入したことで、生徒が安心して運営できる行事を実施することができた。 ②・年間の遅刻指導対象者数は、1年生6名、2年生21名、3年生14名。 ・日常の指導で、道徳観、規範意識を高めることができた。（人権講話後アンケートは年度末に実施） ・2者面談、3者面談を年間2回実施。また、かながわ子どもサポートドックを3回実施し、多様化する生徒の困り感に組織的に対応することができた。	①体育館耐震工事に伴い、従来どおりの行事運営が難しくなるため、新たな企画・運営方法を立案し、昨年度と同様、誰もが楽しめる行事を目指し、計画を検討する必要がある。 ②・遅刻者数を減らすため、日常的な指導を徹底したい。 ・人権講話については、年度ごと視点を換え、生徒の視野を広げたい。 ・様々な悩みや不安を抱えている生徒を把握し、SC、SSWに繋げ、組織的に対応することができた。今年度並みに面談、かながわ子どもサポートドックを実施したいが、時間の捻出が課題である。	(校内評価アンケート) ① 4段階3以上：生徒98%、保護者97%、2以下：生徒2%、保護者3% ② 4段階3以上：生徒97%、保護者94%、2以下：生徒3%、保護者6%	①行事や部活動・地域での活動では多くの方々と触れ合うことができ、充実した学習機会を得ることができた。体育館耐震工事の開始に向けて、誰もが楽しめる行事計画の検討が必要である。 ②・2者、3者面談を2回実施した。さらに、かながわ子どもサポートドックを3回実施することで、生徒の困り感を把握し、養護教諭、SC、SSW、教育相談コーディネーターと連携し、組織的に問題の未然防止を図ることができた。次年度に向けて、教育相談コーディネーター不足が問題である。	①今年度の球技大会や次年度の文化祭について、実施方法等を工夫し、生徒はもちろん、誰もが楽しめる行事を目指す。 ②・遅刻指導・服装頭髪指導等、1年次から継続的に取り組むことが大切である。 ・多様化する生徒の困り感に組織的に対応するため、今年度並みに面談、かながわ子どもサポートドックを実施したい。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12 月 18 日実施)	総合評価（3 月 19 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①主体的に自分の将来像を描き出し、社会的役割を果たそうとする姿勢の確立を支援する。 ②一人ひとりの進路実現を支え切る指導と支援の体制構築と効果的な実践を図る。	①望ましい職業観や勤労観を土台にした人としてのキャリア形成を支援する方策を構築する。 ②各教科との連携により、学習指導のあり方を追求するとともに、自ら決断した目標を成し遂げる力を育成する。	①社会の一員として働くことの意義に気づかせ、本校の育てたい人物像として求められる人間力を養うプログラムを策定する。 ②課題設定や解決法を自分で考えさせながら、進路実現に向け、入試対策や学力の定着を図る学習内容を研究し各教科での実践につなげる。	①本校の育てたい人物に求められる人間力を養うプログラムを策定することができたか。 ②生徒の理解度や習熟度を課題、模擬試験等で把握し個別対応ができたか。	①職業分野別説明会を実施することで、社会の中で責任を背負いながら働くことの意義を考え、自分が社会に出たときの将来像をイメージできるようにした。 ②受験への対応を念頭におき、各学年での必要性を考え、各教科で計画的および段階的に授業を進めるとともに、個々への対応もできた。	①職業分野別説明会の実施時期を次年度の選択科目決定の時期とリンクさせることがカリキュラム開発グループとの間で確立できている。今後も継続していく。更に、実力テストを実施することで、生徒が文系理系の判断をする材料を増やすことも必要となる。 ②定められた内容を授業で進めていく中で、生徒に考えさせ結論を導く時間を作っていくことは課題である。	(校内評価アンケート) ① 4 段階3 以上：生徒 96%、保護者 92% 2 以下：生徒 4 %、保護者 8% ② 4 段階3 以上：生徒 92%、保護者 91% 2 以下：生徒 8 %、保護者 9 % 受験結果と違い、形として表れにくいものでもあるので、時間をかけて伝えていく必要があると考えます。	①職業分野別説明会で社会に出たときの将来像をもち、その自己実現に向けた高校卒業後の進路を具体的に考える流れが確立できている。これは、ほぼ全員の生徒が上級学校への進学を考えているからこそ確立できている流れでもある。 ②授業をとおして基礎学力を定着させ、さらに応用力をつける授業を教科ごとに検討し進めることができている。それを教科横断で共有するとより良くなっていくと考える。	①ここ数年できていることではあるが、カリキュラム開発グループとの連携を密に取っていく。 ②カリキュラム開発グループで実施している、授業見学週間を上手く利用していくことで、教科横断につながると考える。
4	地域等との協働	①地域資源を活用した教育活動を行い、社会の一員としての資質や意識の向上をめざして、多様な人たちとの係わりの中から生き方を学ぶ機会を拡充する。 ②ホームページ等による教育活動、教育成果の発信を行い、広報活動の充実を図る。	①学校や地域等との連携・協働を推進し、教育活動の充実を図る。 ②広報活動の内容としての地域等との連携・協働の方法等を検討し、これらの推進を図る。	①②目標達成のための新たな地域等の連携・協働の方法を模索し、連携可能な事業等を拡充し、教育活動の充実を図る。	①社会の一員としての資質や意識の向上を視野に入れた生き方を学ぶ機会の拡充ができたか。 ②新たな地域等の連携・協働の方法を模索し、実践できたか。	①登下校時のマナーについて、青葉警察署と連携し体験型交通安全教室を実施することにより、生徒の意識づけを行った。また、成年年齢の引下げを視野に入れた「金融教育講座」を行った。 ②近隣の学校等との連携事業、地域貢献活動等を通して、地域人としての意識の醸成を行った。	①②様々な地域連携事業を行うことができたが、今後も良好な関係性を構築する連携事業を模索するため、研究していく必要がある。	(校内評価アンケート) ① 4 段階3 以上：生徒 94%、保護者 87%、2 以下：生徒 6%、保護者 13% 学校周辺地域への思いやりの気持ちについては、約9 割の生徒が持っているが、その具体的な方法がわからず、実践に至らない場面もある。	①②「成年年齢」の引下げを視野に入れた事業や、生徒が「地域人」としての自覚を持つための連携事業等を行うことにより、生徒の意識をある程度醸成することができた。	①②今年度実施した連携事業については、継続して実施していく。また、学校目標実現のための連携事業等を模索するため、今後も研究を進めていく。
5	学校管理 学校運営	①すべての人が学び活躍して、成長を続けられる学校づくりを推進する。 ②将来にわたって、社会的な役割と責任を果たすことができる持続可能な学校づくりに取り組む。	①学校運営のさまざまな機会をとらえて、これからの神奈川の教育を担うことができる主体的な職員を育成することをめざす。 ②生徒と向き合う時間をより多く確保すること及び職員の心身両面の健康維持やワークライフバランス実現のために、学校運営の方法や働き方の改善・改革を推進する。	①校内人権研修や不祥事防止研修などを通じ、知識習得や討論を行うことで個々の職員の資質向上を図る。 ②各職員が業務の精選・見直しを行い、超過勤務を是正する意識を強く持つ。また、意識的に積極的に定時退庁を心がけ、週に1 回は実践する。	①個々の職員の資質向上につながる研修の機会の設定ができたか。 ②職員各自が業務の精選、見直しを通して意識改革を行い、超過勤務を是正できたか。定時退庁を積極的に実践できたか。	①8 月に「自尊感情をどのように育てるか」というテーマで職員研修を行った。生徒に向かい合う時の姿勢を学び、人権意識を高めることができた。 ②職員各自が業務の精選、見直しを通して意識改革を行い、超過勤務を是正できたか。定時退庁を積極的に実践できたか。	①8 月に「自尊感情をどのようにそだてるか」というテーマで職員研修を行った。生徒に向き合う時の人権意識を高めることができた。 ②衛生委員会における討議などを通じて、超過勤務や過重労働を減少させるよう、職員の意識醸成を行った。	(校内評価アンケートには学校管理・運営に関する記載なし)	①今年度の目標については、校内研修や不祥事防止研修を通じてほぼ達成することができた。人権研修に関しては、時代に則したテーマ設定を追求する。 ②超過勤務に対する意識は概ね定着してきたが、一部の職員に業務が集中しないよう、引き続き注視していくことが必要である。	①職員研修について、職員へのアンケート調査を実施し、興味関心が持てるテーマを設定し、取り組む。 ②超過勤務や過重労働を防ぐため、引き続き勤務時間管理システムなどを利用したり、衛生委員会での討議などを通じて改善をはかる。